

焦点を合せる

夢野久作

青空文庫

イヤア。失敬失敬。

李^{リー} 兇^{フア}君というのは君かい。九大法文科の

二年生……ウンウン。

麻^{マー} 雀^{ジャン}を密輸入して学資にしているんだ

ってね。ウム。感心感心。当世の若い人間は、ソレ位の意気が無

くちや駄目だよ。ウンウン。僕は名刺を持たないが……。ハハア。

王君^{ワン}から聞いて知っているか。成る程成る程。どうぞよろしく：

…ナニ。日本語が拙^{ます}いから許してくれ。ナアニ。よく解るよ。そ

れ位出来れあ沢山だよ。……ヤ……ドツコイシヨ……と……ああ

忙しかった。どうだい葉巻を一本……何だ喫^やらないのか。それじ

や僕だけ失敬する。

ちようど 上^{シャン} 海^{ハイ}を出る間際に王君の店から電話がかかって、

君の事を頼んで来たからね。とりあえず僕の船室ケビンに案内するように命じておいたんだが……ドウかね。気に入ったかね僕の部屋は……もっと尤も気に入らないたって、これより立派な部屋が無いんだから仕方がないがね。ハハハハ……この船は荷物船カーゴボートだから、サルーンなんて気の利いたものは無いんだ。つまり荷物がお客様なんだから、人間の方が虐待されるんだ。堂々たる海牛丸、二千五百噸トンの機関長が、コンナ部屋かがに跣はまっているんだから推して知るべしだろう。ハハハ……迷惑めっただろうが長崎に着くまで、僕の寝台ベッドに寝てくれ給え。ナア二僕は滅多めったにこの部屋で寝ないんだ。機関室の隅ツコにモウ一つ仕事部屋があるからね。毛布も枕もそこに置いて在るんだ。君のは今持って来さすからね。書物は無いが雑誌

の古いのなら在る。持つて来させようか。

ウンウン。

実は早く君の様子を見に来ようと思つたけれども、水先案内の野郎が乗っているうちは、機関室しごとの方が、忙しいのでね。おまけに今日の奴は知らない奴だったが、新米しんまいと見えて、矢鱈やたらに小面倒な文句ばかり並べやがったもんだからね。ナアニ、ここいらのパイロテージ水先案内なら、こつちが教えてやりたい位なんだが、新米でも何でも、水先を乗せるのが規則なんだから仕方がない。やっと今さつき水蒸気ランチで引上げて行きやがった。君見たろう……ウン……。もうこつちのもんだ。エコノミカル・スピードでブラリブラリと長崎へ着いて、ダンブロの荷物をタタキ上げれば、後は南洋まわ

りと相場がきまっている。こう排日が非道くちや、荷物一つ動かないからね。ナアニ。濟まない事があるものか。コンナ船に乗つたら、ソソナ小面倒な気兼ねは一切御無用だよ。国際的なルンペン船だからね。金儲けなら支那軍に売渡す鉄砲でも積込むんだ。怖いのは南支那海の三角波だけだよ。ハハハハ……。ナニ？ 船賃？ そんなもなあ要らないよ。王君がそう云やあしなかつたかい。ウン。云つたけど気の毒だ。馬鹿な。納めるんなら十や二十の端た金じや駄目だよ。勿体なくも麻雀の密輸入じやないか。百や二百じや承知しないぜ……。ナニ……。それじや算盤に合わない。それ見ろ、ハツハツハ。僕の好意で乗せてつてやるんだ。他ならぬ王君の頼みだからね。上陸してから鰻でも奢り給え。それ

で沢山だ。ハハハ。お礼には及ばないよ。

それよりもドウだね。一つ機関室を見に来ないか。君と話しながら仕事をしよう。何も話の種だ。ホントウのドン底の地獄生活というのは、コンナぼろふね檻樓船の機関室だつてことを、世間ではあまり知らないだろう。船底一枚下は地獄とか何とか云うけど、地獄の上に浮いた地獄があるなんて事は、船乗り以外には誰も知らない筈だからね。もつと尤も知られた日にはコチトラの首が百あつても足りないがね。ハハハ。何も怖いことはないよ。えんま閻魔大王の僕が御案内するんだから……。

ナニ……この部屋かい。大丈夫だよ。この鍵を預けとくからキチンと掛けておき給え。鍵は君が持っていた方が便利だろう。部

屋を出るたんびに締りをしとく事だ。船員なんてな泥棒みたいな奴ばかりだからね……その鞆かばんは寝台の下にブチ込んでおき給え。ウン。鍵を掛けて封印して在るね。それなら大丈夫だ。中味の麻雀が船員に見付かると五月蠅うるさいからね。何とかカンとか云やがって、一杯飲ませなけあ納まらないんだ。

……こつちへ来たまえ。外はモウ涼しいね。二百廿日も無事平穩か……サツキの小蒸汽の煙がまだ見えてるぜ。引潮時だもんだから港口で流されているんだ。君には見えない。成る程。その眼鏡は紫外線除よけかね。イヤに黒いじゃないか。そいつを除とれば見えるだろう。……見えないかい。慣れないせいだよ。船乗りになると遠い処の方がハッキリ見えるんだからね。アハハ。ヨタじゃ

ないよ。

一体君はどうして王君ワンと識合しりあいになつたんだい。ドウセお楽しみ筋だつたのだろう。ハハハ。ナニそうじゃない。両替をするつもりで王君のレストランへ這入はいつた。ウム。あすこのビフテキは安くて美味うまいからね。国際的に評判がいいんだ。ああそうか。君は初めてだつたのか。這入はいつてみて立派なのに驚いた。当り前だ。あれ位の店はマルセルあたりにもチョット無いよ。表口はお粗末だがね。それよりも綺麗な女が大勢居たろう。ウン。引っかけてみたかい。ハハハハ。引っかけしてみれあよかつたのに。昼間だつて構うものか。高級船員が行く処だからね。地階に立派な設備が出来ているんだ。技アーチャー巧なら上海一だつて云うぜ。僕はあすこ

の常連なんだ。五六百両借りがあるがね。王君は大きいから千両位まで貸すよ。尤も女に馴染なじみが出来なくちや駄目だがね。ハツハツ。チョット失敬して便所へ行つて来る。君もつき合うか……。

ウン……そんな事は全く知らなかったのか。無理もないね。ウンウン、麻雀買いの手筋なら何でも知っている。……この頃は蘇そ州しゅうへ行つて自分で指図をして日本人向きに彫らせる。……上海

のはいけないのかい。フウン。彫りは派手だけれども牌パイの出来は蘇州の方がいい……フウン。支那人と日本人の好みが違うかね。

僕はカラツキシ素しろ人ろうとなんだが。フウン。あの団子みたいな模様と、鳥の恰好が、特に日本人は八釜やかましい。そんなものかねえ。成る程。……日本内地では麻雀賭博が流行はやり出したかね。そこで密

輸入の上^{じょうもの}物が売れ出した。つまり日本の麻雀が本格になりかけているんだね。今に支那式のルールが復活する……そうかねえ。とにかく面白いもんらしいね。ウンウン。それで蘇州へ行つて麻雀を買い込んだ。ウンウン。帰りに小銭^{こぜに}が無くなったから切るつもりで、王君のレストランへ偶然に這入った。料理を一皿注文して珈琲^{コーヒー}を飲んでいたら……酒は駄目なのかい君あ……そいつは話せんねえ。ダイナジンで奴を一杯御馳走しようと思つていたんだが。ジンの中へダイナマイト……つまりニトログリセリンが割つてあるんだ。トテモいい心持ちに酔うからね。ケープタウンで作り方を教わ^{おそ}ったんだが。……ウンウン。そこで珈琲を飲んでいたら女が大勢タカつて来た。フフン。君はナカナカシャンだから

なあ。おまけに貴公子然としているからなあ。ハツハツ。御愛想
 じゃないよ。ウン。それでどうした。無理矢理に奥へ引っぱり込
 まれた。アハハハ。上じようだま玉と見られたな。そこへ王君が出て来
 て最高級の御挨拶をした。アツハツハツハ。コイツは大笑いだ。
ワンこう王公一代の傑作だろう。滅多めったにお客を見損なう男じゃないがな
 あ。それからどうした……。

それから女どもを遠慮してもらって、王君と差向いになつて事
 情を打ち明けたというのか。ポケットを裏返して見せた。ハツハ
 ツ。そんな事だろうと思つた。正直だなあ君あ。ウンと飲んだり
 喰つたりしてから打明ければよかつたに……ブチ殺されるもんか。
 王君は却かえつて御馳走をして帰すよ。脅喝おとなに来た奴でも溫柔つましく抓

み出すばかりだからね。だから評判がいいんだがね。ウンウン。それから王君が同情してこの船を教えてくれた。フ——ン。君の親孝行に同情して教えてくれた。重慶にお母さんを一人養っている……タツタそれだけの理由かい。本当の事を云つてみたまえ。隠したつて駄目だよ。この次に王君に会えばわかるんだ。ナア二、どこへも聞こえやしないよ。機械の音が八釜やかましいから……ナニイ……何だつて……。

ハハハ。ナアル程。そこで王君は大学をやめて、レストランのボーイになれて君に勧めたア？……アツハツハこいつあいヨイヨ傑作だ。二階の婦人専門のサルーンに出れば、最低千円のチップは請合うと云うのか。いかにも読めたわい。王公一目で君のス

タイルに参つたんだね。学生にしちやスマート過ぎるからな。そこで都合よく奥に引っぱり込んだんだ。やつぱり王公は眼が高え^{たけ}や。ハハハハ。今度上^{シャンハイ}海へ来たたら是非モウ一度寄つてくれつて? ……ナカナカ執念深いな。 ……ナニ ……今のチップの千円問題は僕に云つちやいけないって? ハハハ馬鹿にしてやがら。僕の俸給と桁^け違^{ちが}いだもんだからソナ事を云うんだ。行き届いた男だが、しかし中華人一流の要らざる心配だよ。まさか僕が雇われに行けあしめえし。ハツハツハツハツ ……

サア来た。 ……ここが機関室だ。この垂直の鉄梯子^{てつぼしじ}を降りるんだ。油でヌラヌラしているから気を付け給え。落ちたらコツパ微塵^{みじん}だよ。ウンなかなか君は身が軽いね。運動をやっているんだ

ね。スキーにダンスか。そいつあモダンだ。女が惚れる筈だ。オ
ツト危ない……。

こつちへ来たまえ。……聞えないかい。オイオイ。こつちへ来
たまえたら。このベルトに触らないように気を付けたまえ。

これが僕の仕事部屋だ。この椅子に掛け給え。アツトツト……。

濡れてたかい。イヤ失敬失敬。暗いからわからなかった。茶瓶

か何かそこへ置きやがったな。オヤオヤ。お尻がビショビショに

なつちやつたね。アツハハ。茶粕ちやかすが付いてらあ。仕方がない。

この鉄椅子に掛け給え。そのうちに乾くだろう。……見たまえ。

ちようどマン中の汽ボイラー罐かんが真正面に見えるだろう。忙しくなると

この部屋に来て仕事を睨にらむんだ。時化しけの時なんぞは一週間位寝な

い事があるんだぜ。

オーイ。誰か来い。……聞こえないか……君はチョットその呼
 ル鈴を押してくれたまえ。……何だボン州か。ウン。コック部屋に
 行つて珈琲と菓子を貰つて来い。普通のじゃ駄目だぞ。船長が上
 海で買込んだ奴があるんだ。コック部屋に無けあ船長室に在る筈
 だ。そいつを搔かつ払ばらつて来い。なぐられるもんか。愚ぐ愚ぐ吐ぬか
 したら俺が命い令いと云え。船長おやじには貸しがあるんだ。……行つ
 て来い……。

……どうだい。機関室つてもものは這入つてみると存外荒つぽい
 だろう。聞えるかい。僕の云う事が。きこえる……ウン……ボン
 州あだなつてな綽名だよ。……仏蘭西語フランスの挨拶かと思つた？……アハハ

ハ大笑いだ。あの垂直の鉄梯子を降りたら、ドンナ人間でも本名がなくなるんだ。地獄の一丁目だからね。みんなかいみょう戒名で呼び合うのが習慣になっているんだ。銀行泥棒上りが銀州、強盗前科が腕わんこう公、女殺しがエテ公、凡クラがボン州……モウ暫くすると君だって戒名を付けられるかも知れない。黒眼鏡とか何とかね。ハツハツハ……ナアニ。みんなここへ来れあ年季を入れるんだよ。何でも白状しちまうんだ。娑婆しやばへ出れあ寿命の無い奴ばかりだからね。首と釣り換えて働きますという意味で、綺麗きれいサツパリと白状しちまうんだ。だから僕の事を閻魔えんま様と云うんだ。がそんな奴でない、イザとなった時にタタキまわしが利かないから妙だよ。……見たまえ。あれが最旧式の宮原式ボイラーなんだ。二三十年

前に出来た骨董品だが、博物館あたりへ寄附しても相当喜ぶシロモノだよ。ハツハツ。ナア二大丈夫だよ。爆発なんかしないよ。出来は古いがガツチリしているからね。安全弁があんなに白いスチームを吐いているだろう……ブーブーいつてるのが聞えるかい。ウン……見えるけど聞えない……慣れないからだよ。

アツ……蓋ふたを明けた。眩まぶしいだろう。

ボイラー
汽罐

の蓋を明けたんだよ。まるで太陽だろう。アハハ。もう

あんなに白熱しているんだからね。あれで千二三百度ぐらいのもんだろうよ。それでもあの中へ人間一人ブチ込んだら、五分間で灰も残らないよ。美味おいしそうな臭いだけは残るがねハツハツハツ。

人間をブチ込んだ事があるかって……あるともさ。人間ばかり

じやない。品物だつて何だつて面倒臭いものはミンナ打ち込むんだ。この間なんぞは鉄砲を積んで呉^{ウースン}淞に這入りかけたら、その間際で船員の中に、スパイが二人混^{まじ}つてゐる事を発見したから、文句なしにブチ込んでくれたよ。ナア二途中で波に濡^{さら}われたと云いやあソレツキリだからね。

……ヤ……ちようど茶が来た。一杯飲んで行き給え。序^{ついで}にモウすこしすると面白い事が初まるから見て行き給え、今にわかるよ。トテモ面白い。簡単なバクチなんだ。見れば解るよ。

ハハハ……心配しなくともいい。地獄の珈琲だつて麻酔^{まやく}薬も何も入つてやしないよ。君を眠らして、麻雀の十箱やそこら頂戴したつて仕様がなからう。第一君を殺^やるつもりならワザワザこんな

処まで引張り込みやしなないよ。学生の癖に意気地いにくじが無いんだなあ君や。ハハハハハ。まあ珈琲を一杯飲み給え。スマタラ製だが非常に芳香かおりが高いんだ。度胸が据つて僕の話が面白くなるだろう。コンナ世界も在るって事が解れば、将来キツト参考になるよ。トニカク徹底しているんだからねえ機関室の地獄生活は……。

成る程なあ。君等にとつちや学校を卒業するのが目下の急務だろうよ。最早もはやジキ試験が始まる……故郷にはお母さんが待っているか。フウン。そうかそうか。まあシツカリ遣り給え。しかし試験そうろうの候そうろうのつていうけど、今の学校の試験なんか甘いもんだよ。僕が機関長になった時の体験を話したら身の毛が竦よだつだろうよ君等は……まあ聞き給え……モウ船室ケビンには用は無いだろう。十二、書

物を読みたい。書物なんかは大概にしとくがいいね。学校で習った事なんか実際の役に立ちやしないよ。理窟通りに機械が動くもんなら機関長は要らない。学者の思う通りに世の中がなるものなら、ボルセビキの理論は一通りで済むんだ。ナカナカ学者だろう。ハツハツ。

オイ。ボン州。チョット来い。モウーパイ茶を入れて来い。今度は紅茶だ。俺のはウイスキーを割って来るんだぞ。それからその扉ドアを閉めておけ。八釜やかましいから……。

どうだい。こうして扉ドアを閉めとくと機械の音がウツスリしか聞えないだろう。扉ドアが厚いからね。しかしコンナに軽い騒音でも、機械のどこかに故障があると、直ぐにこっちの頭にピインと来る

んだよ。故障の個所までチャント解るから不思議だろう。ナアニ。
 永年の経験さ。この部屋で寝ていると夜中に何か知らんハツとし
 て眼を醒ます。ハテ。何で眼を醒ましたのかと思つて、ボンヤリ
 していると果せる哉かなだ。コンナ風にごちやごちや雑然聞えて来る騒音の中
 のドレか一つが起している。ズツト奥の小さなピストンのバルブ
 がおかしいな……とか何とか直ぐに気が付く。そんな小さな音に
 眼を醒ます筈はないと思ふかも知れないが、不思議なもので、機
 械のジャズが順調に行つていゝうちはグツスリ眠つていゝが、す
 こし調子が変わるとフツと眼が醒める。同じ船に長く乗つていゝと
 船の機械全体が、自分の神経みたいになつてしまふんだね。船が
 黒潮に乗ると同時に、運転手がポツカリと眼を醒ますようなもん

だ。

まだ驚く話があるんだ。

今君が見たあの大きな汽ボイラー罐かんね。あの正面の電球の下に時計みたいなものが在つて、指針はりが一本ブルブル震えていたろう。あれが汽ボイラー罐かんの圧プレシユア力ゲージ計けいなんだが、あの圧力計ゲージの前に立つて、あの指針はりが、二百封度ポンドなら二百封度ポンドの目盛りの上に、ピッタリと静止しているのを見た一瞬間に、この指針はりはこれから上るか……下るかっていうことがピンと頭に来るんだ。静止している指針はりがだよ。そいつがピンと来る位の頭にならなくちや、一人前の機関長たあ云えないんだ。同時に圧力がコレ位しか上らないところを見ると石炭が悪いんだな……とか……どこかに故障があるんだなど

かいう直覚が来る。向うの港に着くまでに石炭が足りるか足りないかといったような問題まで、同時にピーンと来るんだから、あの指針はり一本がナカナカ馬鹿に出来ないんだ。ソウ……第六感とでもいうかね。

無論そこまで来るには僕も苦勞したもんだよ。まあ聞き給え……。

……オーイ……這入れ……。

……ヤツ来た来た。テルモス魔法瓶に入れて来たな。ボン州の癖に気が

利いているじゃねえか。このウイスキーは誰のだ。何だ船長のか。

イヨイヨ気が利いているぞ貴様は……もったい勿体なくもK、O、K、

じゃねえか。ステキステキ。どうだいチョツピリ、ウイスキーを

入れようか。ナニ。奈良漬に酔う？ ナカナカ日本通だね君や。それじゃカステラを遣り給え。上海から逆輸入の長崎名物だ。吾輩の話の聞き賃だ。ハハハハ……オイオイ……野郎。あとを閉めねえか。馬鹿野郎……。

イヤ。全く久し振りにコンナ話をするがね。吾輩が機関長の試験を受けたのが二十一の年だった。イヤア君も二十一かい。そいつあ奇遇だね。ハハハハ。ところでソイツが満点試験と来ているから凄いだろう。ドレ位凄いか話してみなくちや解るまいがね。

何しろこっちは、無けなしの貯金に借金の^{うわぬ}上塗りした何十円也を試験料としてブチ込んでいる一方に、船乗片手間の独学と来ているんだから絶体絶命だ。高等数学の本なんかテンデわからない

奴を、片ツ端かたばしから一冊分丸譜記さ。そんな無茶をやった事があるかい。無いだろう。トテモお話にならないんだ。兵庫の下宿の天井から、壁から、襖ふすまから、障子しょうじから、電燈の笠まで、公式を書いた紙をベタベタ貼り散らして寢床の中から眼を開ければ、直ぐに眼に付くようにしている。譜記した奴は引っペガして、新しいのを貼るといふ寸法だ。下宿の婆さんが驚いて、コンナに沢山にまあ。これは及第のおまじないですかかって聞くんた。成る程おまじないに違いないね。丸めて嘸のんでしまいたいくらい大切なおまじないだからね。ハハハ。

それから当日試験場へ行くと、初日は筆記試験ばかりだったが、コイツは兎も角とかくも満点を取って帰ったと見えて、明日あすの試験に出

ろという通知が夕方下宿に届いた。

ところで翌^{あく}朝、勢い込んで試験場に来てみると驚いたね。七十何人居た受験者が、タツタ二人しきや居ないんだ。何かの間違
いじゃないか知らんと思つて一寸^{ちよつと}キヨロキヨロしたもんだよ。

ナアニ。みんな振り落されたのさ。ホントウの満点試験だからね。
綴^{スベル}字が一字違つてもペケなんだから凄^{かみ}いよ。七十何人、試験
料丸取られさ。これがお上の仕事でなけあ、金箔付きのパクリだ
ろう。

僕と一緒に居残つた奴は、島根県の何とかいう三十ばかりの鬚^ひ
男^{げおとこ}だったが、広い教室のズツト向うとこつちに離れて製図を

遣るんだ。……お互に顔を見交^{みかわ}して泣き笑いみたいな顔をし合つ

たつけ。…ところが翌る日行つてみると、今度はそいつがノックアウトされている。つまり一番年の若い僕だけがタツタ一人残つた訳だが、心細いの何のつてお話にならない。冥途あのよの入口に一人ポツチで来たような気もちだ。しかし試験官は、それでも遠慮なんかミジンもしない。一匹もパスさせなくたつて構わないんだから平気なもんさ。口頭試験で百三十ばかりの問題を立て続けにオツ冠せて来る。むろん片ツ端から即答さ。時計を睨みながら二三十秒ぐらい待つてくれるだけで、一分と過ぎたらその場で落第の宣告だ。恐らく僕の顔には血の気が無かつたろうと思う。それでもヤツトの思いで汗を拭き拭き受け流して行くうちに試験官がパツタリと帳面を閉じたから、落第じゃないかと思つてハツとして

いると、その顔を見ながら試験官の奴ニツコリしやがってね。イヤ、御苦労でした。成績は満点です。あちらの室へやで茶を飲みましよう。……と早口で云った時には、思わずポオーツと気が遠くなつたね。しかし、それでも嬉しかったから尻尾しっぽを振り振り、浮き足でクツ付いて行くと、廊下を一曲りした処あきの空部屋に僕を連れ込んで、熱い渋茶を一パイ御馳走した。その序ついでに室へやの中をグルリと見まわすと、試験官の奴モウ一度ニヤリと笑つたもんだ。

「この室へやに石炭トシが何噸、詰まるでしょうかね」

と冗談みたいに吐ぬかしおつてね……しかも、その顔付きたるや、断じて冗談じゃないんだ。たしかにまだ試験うちの中らしい面構つらえをしてケツカルんだ。考えてみるとサツキ満点を宣告した時には、

ただ御苦勞と云つただけで、お芽出度うとは吐かさなかつた。チヨツクラ油断させておいて、不意打ちにタタキ落そうという寸法なんだ。こんなタチの悪い試験に引つかかつた事があるかね……恐らく無いだろう。

そう気が付いた刹那せつなに僕はモウ一度気が遠くなりかけたね。そいつを我慢すべく熱い茶を一杯グツと嚙み込むと、破れカブレの糞度胸くそどきようを据えたもんだ。

「そうですねえ。六十噸トも這入りますかね」

と冗談みたいに返事してやったら、試験官奴め、眼を丸くしやがって、

「へエ。そんなに這入りますかね」

と吐かしやがった。おまけに附け加えて、

「室へやの容積というものは見損ない易いものでね。誰でも初めて船に乗って、石炭を積むとなると、この見込みが巧く行かないので、下級船員から馬鹿にされる事になるのですが……ハハン……」

と腮あごを撫でおった。……ナアニ。親切でソソナ事を云うもんか。ドギマギさせようという策略に違いないんだ。……ヘエ。それじや五十噸トンぐらいですか……とか何とか、お付き合いにでも云おうもんなら……ハイ。待つてました。九十九点九分九厘で落第……と来るんだらう。土に噛かじり付いても試験料をパクリ上げようという腹なんだからヒドイよ。そんな時には流石さすがの僕も、思わずグツと来てしまったね。何しろ若かったもんだから……篋べらぼう棒めえ。

どうでもなれという気になったもんだ。

「…………ええ…………しかし六十噸というのは試験の解答ですよ。天井までギツチリの勘定ですが、しかし實際をいうと、この問題は非常識ですね。本当にこの部屋に、それだけの石炭を詰め込んだら、壁と床が持たないでしょう。エへへへへ…………」

と冷やかし笑いをして見せたら、試験官の奴、塩しよっぱい面つらをして睨み付けたと思うと、プリプリして出て行きおつた。そこで僕も土俵際で落第したもんだと諦めて、その晩は久し振りに酒を呷かぶってグツスリ寝込んでいるうちに、いつの間にか夜が明けたらしい。下宿の婆さんがユスブリ起して「モウ九時だつせ。お手紙が来とりまつせ」と云うんだ。むろん落第の通知だろう。見たつて

ドウなるもんか。勝手にしやがれと思ひ思い、何だか気になるから開けてみたら、あにはか豈計らんやだ。試験官の直筆だったがきゆうだ及第いも及第。とりあえずお芽出度う存ずる。就つては目下、当港

(神戸)に停泊中の病院船、十字丸、三千二百噸の機関長の補充として御乗船願いたいが、御意嚮いこうは如何いかにでしょうか。月給、百何十円。うんぬん云々……という孫悟空みたいな話だ。そんな時に又、頭が又シーンとしちやったね。明治四十年頃の百兩といったら大したもんだ。幅が利くにも何にもドエライ出世だ。おまけに若い機関長のレコード破りというのが評判で、アタリ八方、持てたの候のつてお話にならなかつたが、実をいうとコイツが悪かつたんだね。若い時の苦勞は買つてもしると云う位だ。あんまり早くか

ら立身したり、世間に持てたりするのは碌ろくな事じゃあないんだ。
 お蔭でスツカリ身体からだをヤクザにした上に、今の十字丸に乗ってか
 ら一年目に、瀬戸内海で推進機スクリユウを振り落した。船に乗る時には
 十分に機械を調べて受取ったつもりだったが、推進機スクリユウまでブン
 擲なぐつていかなかったのが運の尽きだった。尤も瀬戸内せとうちだから助かつ
 たもんだ。ケープ沖か何かだったら、南極へ持つて行かれたかも
 知れない。

……コイツがケチの付き初めで、それ以来僕の乗る船に碌ろくな事
 はない。新式タービンのパリパリが、ビスケー湾ひのきぶたいの檜舞台ひのきぶたいでへ
 タバツたり、アラスカ沖の難航で、陸地おかが鼻の先に見えながら、
 石炭が足りなくなったりする。そんな時には石炭の代りに、メリ

ケン粉を汽罐かまにブチ込んで、人間も船体ふねも真白にしてしまったものだがね。もちろんこつちの手落ちだった事は一度もないんだが、不思議に運が悪いんだ。とうとうコンナ瓦落船がらくたふねに乗って、骨董みたいなお汽罐かまの番をるところまで落ちぶれて来た訳だがね。ハツハツ……しかし、お蔭で君達の喜びそうな冒険を、イクラ体験して来たか知れやしない。今サツキ話しかけた推進機スクリュウの一件を、モウ一度印度洋インドで蒸し返した時なんぞは、今思い出してもゾツとする目に会ったね。ちようど歐洲大戦のシヨツ端ぼなで、青島チンタオから脱け出した三千六百噸の独逸巡洋艦エムデンが、印度近海を狼みたいに暴れまわっている時分のことだ。

大阪商船の濠洲メルボルン通いで、三洋丸という快速船はやいのがあつた。七

千噸ばかりの客船メイだったが、コイツが航路コースを切り変えて、一かバチかの欧羅巴ヨーロッパ行きを思い立ったもんだが、今のエムデンを怖がつて行くものがないというので、とりあえず僕が器械の方を引受けて、新嘉坡シンガポールまで来たのが忘れもしない、大正三年の九月の十五日……暑い盛りだ。あすこでポートサイドからマルセル直航の男船客ばかりを三百五十何人と上等の紅茶を積めるだけ積んだ訳だが、コイツが無事に地中海へ這入れれば、むろん大儲けさ。欧羅巴全体が敵も味方も咽喉のどを鳴らして待つている極ごく上じょう飛切とびきりの紅茶バツカリと、金かねずくを通り越したお客バツカリ満載しているんだからね。紀州の蜜柑船みかんぶねどころの騒ぎじゃない。三井の遣る事は凄いいよ……そこで聯合艦隊れんごうの無電を受けながら、勇敢に

印度洋のマン中目がけて乗り出してみるとドウダイ。陸影おかげを離れてから間もない三日目の、二十三日の朝早く、無電技手が腰を抜かしたまま船橋ブリッジから転がり落ちて来た。……昨夜ゆうべの真夜中にエムデンが突然、向う岸のマドラス沖に現われて、石油タンクの行列を砲撃した。エドワード砲台が泡あわを喰くって、闇夜の大砲をブツ放ばなしたが、その時には最早もはやエムデンは居いなかつた。三洋丸はそのまんまで行けば、そろそろエムデンの逃路こうすにぶつかるかも知れない。気を付けろ……といったような無電が、ビーツ……ビ——ツと這入はいつて来たと言いうんだ。

イヤモウ……みんな青くなつたの候ときのつて……覚悟かくごの前まへとか何とか、大きな事を云いつていた船長が、日本人の癖くせにイの一番に慌

て出して、フルスピード全速力で新嘉坡シンガポールへ引返すと云い出したもんだ。
 つまりエムデンの死に物狂いのスピードが、先ず二十七八節ノットで、
 三洋丸のギリギリ決着が二十三四節ノットだから、見付かったら最後、
 物が云えないという算盤そろばんを取ったんだらう。しかも、それ位の
 算盤なら何もわざわざ、印度洋のマン中まで出て来て弾はじくが必要もの
 はないのだ。忠兵衛さんじやあるまいし。大阪を出た時からチャ
 ンと見当が付いている筈なんだが、要するに今の無電と一いっしょ所に、
 新規蒔まき直しの臆病風が、船長の襟元からビービーツと吹っ
 込んだんだね。

そいつをチーフメイト一等運転手が腕うでずくで押し止めようとする。そいつを
 又、乗客の中に居た、アイランド愛蘭の海軍将校上りが感付いて、船中

に宣伝して廻ったから堪まらない。碧眼玉あおめだまをギョロ付かした乗客が、吾れも吾れもと船長室へ押しかけて、土気色トシバになった船長を取巻いて、ドウスルドウスルと小突きまわす。一等運転手と事務長が、仲に這入って間誤まごまご間誤する。船長の名前は勘弁してくれだが、国辱にも何にもお話にならない。エムデン艦長といいコントラストが出来上った。……結局、そんな連中で、寄つてタカつて、一か八かのコンニヤク押問答をフン詰フン詰ませたあげく、僕がその評議のマン中に呼び出される事になったもんだ。

……今以上にスピードが出せるか出せないか。それによつてスエズへ直航するかしないか……又は新嘉坡へ引返すにしても、荷物荷物を棄てるか、棄てないかを決定する……。

という問題を持ちかけて来たから、僕は占めたと思つたね。こ
こいらで一番、身代しんだいを作つてくれようかな……序ついでに毛唐けとうの胆きもつ
玉たまをデングリ返してやるか……という氣になつて、ニツコリと一
つ笑つて見せたもんだ。

「お前さんは運のいい船に乗り合わせたもんだ。一万磅ポンド呉れる
なら、速力を今よりも五節ノットだけ殖ふやしてやろう。むろん荷物は今
のマンマで結構だ。モウ五節ノット速たくなつたら、いくらエムデンでも
追付かないだろう……しかし物には用心という事がある。万一お
前さん方が、五節ノットでもまだ足りないと思う場合にブツカルような
事があつたら、ソレ以上一節ノット毎ごとに、一万磅ポンドずつ、奮発しても
らいたい。それでも足りなけあ紅茶を棄てる事だ。全速力三十一

ノット
節まで請合う。それでも追付かなけあ諸君が海へ飛び込むだけの
こつ
事た」

とチョツピリ威嚇おどかしてやったもんだが、毛唐の物分りの早いの
には驚いたね。チョツト別室で相談したと思う間もなく、シャン
とした奴が五六人引返して来て、二千磅ポンドの札束を僕の前に突き出
した。むろんアトの八千磅ポンドはポートサイドへ着いてから渡すとい
う、立派な証文付きだったが、流石さすがの僕もソン時には、チョツト
頭が下がったよ。何しろ大きな銀行が、ポケットの中でゴロゴロ
していようという連中だからね。助かりたいのが一パイだったの
だろう。船長や運転手までホツとしたような顔をしていたつけが、
可笑おかしかったよソレア。何はともあれエムデン様々々と拝みた

くなつたね。

……というのはコンナ訳だ。

実をいうと三洋丸ぐらゐの機械を持っていれあ、速力を五節増ノットすくらの事は屁への河童かつぼなんだ。新しい機械の力はかなり内輪に見積つてあるもんだからね。……と云つたつて、むろん船長や運転手なんかに出来る芸当じやない。いわば僕一人の専売特許かも知れないがね。ずっと前、南支那海で海賊船がノサバツた時に、万一の場合を慮おもんばつて、何度も何度も秘ないし密よで研究して、手加減をチャント吞込んでいたんだから訳はない。僕は機関室へ帰ると直ぐに、汽ボイラー罐バルブの安全弁バネの弾条の間へ、鉄きの切きつ端ばしを二三本コツソリと突込んで、赤い舌をペロリと出したものだ。

タツタそれだけで一万磅ポンドの仕事になつた訳だが、何を隠そうコイツは立派な条令違反なんだ。発見みつかつたら最後、機関長の免状を取上げられるどころじゃない。ドエライ罰金を喰わせられた上に、懲役にブチ込まれる事になるんだから、ソレ位のねうちはあるだろう。沉いんや何百人の生命いのちと釣りかえの問題だからね。

しかもタツタそれだけの手加減で、汽ボイラー罐プレスの圧力がグングンせり上つて、圧力計ゲージの針がギリギリパイのところまで逆立ちしてしまつた。同時に推進機スクリュウの廻転がブルンブルン高まる。速力スピードが出たどころの騒ぎじゃない。素人が見たら倍ぐらい早くなつたように思える。両舷を洗う浪の音がゴオオ……ツ……ゴオオオ——オオツと物凄く高まつたもんだから、デツキに立っていた連中

はスツカリ安心してしまつたらしいね。今までの心配疲れも出て来たんだらう。一人一人に船室^{ケビン}へ歸つてグーグー寝てしまつた様子だ。そこで機械と睨めつくらしをしていた僕も、この調子なら大丈夫と思つて、椅子に腰をかけたままウトウトしていた……までは良かったが……アトが少々面白くなかつた。

その翌る朝のまだ薄暗い中^{うち}の事だ。ポートサイドで札ビラを切つている夢か何か見ている最中^{さなか}に、今の推進機^{スクリュウ}の中軸になつている、一番デツカイ長い円^{シャフト}棒が、中途からポツキリと折れたもんだ。急にスピードを掛けた馬力^{やっ}が、イの一番に円^{シャフト}棒へコタえたんだね。

アツハツハツハツハツ……そんな時には流石^{さすが}の吾輩も仰天したよ。

折れると同時にキチガイみたいに廻転し出した機械の震動が、白河夜船のドン底まで響き渡ったもんだから、ウンもスンもあつたもんじやない。てつきりエムデンに遣られてゴースタンか何か掛けたものと、船長初め思い込んだらしいんだね。アツという間に船の中が、ワンワンワンと蜂の巣を突ツついたような騒ぎになつた。船員も乗客も一斉にデツキを目がけて飛び出して来た。御丁寧な奴は卒ひつくりかえ倒ひつくりかえつたという話だが……しかしこつちは眼をま眩まわすどころの騒ぎじやない。ともかくも機械の運転を休止して、予備のシャフトを入れ換える事だ。

そうすると又、大変だ。この沖の只中で船を止めておくのは、エムデンの目標を晒さらしておくようなものだといふので、乗客が血ち

まなこ

眼まなこになつて騒ぎ出した。船長はもとより運転手までが、七面鳥みたいに気を揉み初めたものだから、イヨイヨもつて手が着けられなくなつた。一方に船の方は呑のんき気なもんだ。そんな騒ぎを載せたまんま、エムデンの居そうな方向へブラリブラリと漂流し始めた。二三百尋びろもある海で碇ところなんか利きやしないからね。通りかかりの船なんか一艘だつて見付かりっこない。SOSを打つてみても聯合艦隊が相手にしてくれない……というのだから、その騒動たるや推おして知るべしだろう。

……ところが又、生あいにく憎なことに、その円シャフト棒の入れ換えが、キツカリ一週間かかったもんだ。つまりその間じゆう、全然、機械の運転を休アップ止して、行きなり放題に流れ廻わつていた訳だ。

……何故……何故……何故……何故……何故……何故……何故……何故……何故……何故……
 インチ 何吋、全長二百何十呎フエートという、大一番の鋼鉄はがねの円棒シャフトだ。重さな
 んかドレ位あるか、考えたってわかるもんじやない。実際、傍へ
 寄つてみたまえ。これが人間の作ったものかと思うと、物が云え
 なくなる位ステキなもんだぜ。そいつを索条ワイヤや鎖チェーンでジワジワと釣
 り上げるだけでも、チョットやソットの仕事じやない。おまけに
 あの大揺れの中を、二日ばかりで荷物を積み換えて、ヤット少し
 ばかりお尻を持ち上げさした船のスクリュウの穴の中へ、ソーツ
 と押し込もうというのだから、無理な注文だという事は最初から
 わかり切っているだろう。船渠ドックの中で遣つても相当、骨の折れる
 仕事を、沖の只中で流されながら遣ろうというのだからね。……

のみならず今も云う通り、七八千噸トの屋台を世界の涯まで押しま
 わろうという鋼鉄はがねの丸太丸太棒だ。ピカピカ磨き上げた上に油でヌ
 ラヌラしている奴だから、手がかりなんか全然まるで無いんだ。ワイヤ
 とチエンで、どんなにしっか緊り縛り付けといたって、一旦迂り出した
 となれば、人間の力で止める事が出来ない。一分ぶ迂ったたら一寸すん：
 一寸迂ったたら一尺といった調子で、アトは迂り放題の、惰力の
 付き放題だ。遠慮も会えしやく釈もあつたもんじやない。ズラズラズラ
 ズラツと迂り出したが最後の助。鉄の板でも何でもボール紙みた
 いに突き破つて、船の外へ頭を出すにきまつている。そのまま、
 ズルズルズツポリと外へ抜け出してしまつたら、ソレツキリの千
 秋楽だ。取り返しが付かぬどころの騒ぎぢやない。飛び出しがけ

の置土産おきみやげに巨大な穴おおきでもコジ明けられた日には、本家本元の船体が助からない。シャフトのアトからブクブクブクと来るんだ。……ハツハツどうだい。わかるかね。シャフトの素晴らしさが。ウン。わかるだろう。コンナ篋べらぼう棒な苦心した機関長はタントいないだろうと思うがね。

ところが世の中は御方便なものでね。險けん呑のんな仕事なら、自慢じゃないが、慣れっこになっている吾輩だ。尤も吾輩が乗ったからシャフトが折れたのかも知れないがね、ハツハツ。前以て、そんな間違いが無いように、二重三重に念を入れて、不眠不休で仕事をしたから、ヤット一週間目に蒸スチーム汽を入れるところまで漕こぎ付けたんだが、その間の騒動ポンドつたらなかつたね。一万磅ポンドなんか無

論立消えさ。糞くそでも喰らえという気で、押し切るには押し切ったが、実のところ寿命が縮まる思いをしたね。……乗客の方は無論の事さ。その時分に印度洋のマン中で、一週間も漂流するなんて事を、ウツカリ最初から云い出そうもんなら、気の早い奴は身投げぐらい、しかねないんだ。毛唐なんて存外、気の小さいもんだからね。すぐに思い詰める奴が出て来るんだ。その証拠に、明日あしたで云い抜けながら仕事をして行くうちに、三日ばかり経ったら乗客が、一人も寝なくなってしまった。みんな神経衰弱にかかっちゃったらしいんだ。来る日も来る日もエムデンの目標になつて浮いているんだから、考えて見れあ無理もないさ。こつちも無論エムデンが怖くないことはなかったが、怖いつたって今更ドウ

にも仕様がない。タツタ一本しか無い予備シャフトを無駄にした
らそれこそホントウに運の尽きだからな。

そんな訳で、最初から腹を定めて仕事をしたお蔭で、ヤツト船
が動き出すには動き出したが、今度はモウ速力を出さない。八
千磅の証文をタタキ返して、安全弁の鉄片を引っこ抜いてしま
った。すると又、そのうちに、乗客の中でも一番航海通の海軍將
校上りが……サツキ話した慌て者さ……そいつが手ヒドイ神経衰
弱に引つかかってしまった。機関長を殺せとか何とか喚めきやが
つて、ピストルを振りまわすので、トテモ物騒で寄り付けない。
……とか何とか事務長が文句を云いに来たから、僕は眼の球の飛
び出るほど怒鳴り付けてやった。

「……訳はない。そいつを機関室ここへ連れて来い。汽罐かまへブチ込んでくれるから……いくらか正気付くだろう」

と云つてやつたら事務長の奴、驚いて逃げて行つたつ。ハツハツハツハツ……。

オーイ。這入れえ。オイオイ。這入れえ……。

何だ。ボン州か。何の用だ。ナニイ。チツトモ聞えない。こつちへ這入れ。そうしてその扉ドアを閉める……ちつとも聞えない。

どうしたんだ。……ウンウン……検査が済んだのか。恐ろしく恐ろしく手間取つたじゃないか。ウンウン真鍮張りのトランクしんちゆうば

の中に麻雀八筭はこか……牌パイの中味は全部刳抜くりぬいて綿ぐるみの宝石か

……古い手だな……。

オットオット。待ち給え李君……今頃ピストル何か出したつて間に合わないよ。君の背後うしろの寝台の下に居る奴がスイッチを切ると、今君が腰をかけている鉄の床しょうぎ几ぎに、千五百ボルトの電流が掛かるんだ。そのために君のお尻を濡らしておいたんだが、気が付かなかつたかい。ハハハ……。

先刻さつきから冗くどく説明しているじゃないか。あの垂直の鉄梯子を降りたら運の尽きだと……ハハハ。解つたかい。わかつたらモウ一度腰を卸おろし給え。大丈夫だよ。まだ電流でんきは来ていない。君を黒焦くろこげにしちやつちや、元も子もなくなるからね。ね。解つたろう。

君はこの船を普通ただの船と見て乗つた訳じゃなからう。最初から秘密があると睨んで虎穴に入ったんだらう。序ついでにこの船の秘密を

看破^{みやぶ}ってやれという気になってここまで降りて来たのは、いい度胸だったかも知れないが、そいつがドウモ感心しなかつたね。

ナニ。あの宝石は模造品だつて？　ハハハ。そうかも知れないが模造品で結構だよ。頂戴する分には差支えなからう。ナニ、皆呉^くれるから生命^{いのち}だけは助けてくれか。ハハハハ……それは時と場合^{ワケ}に依つては助けてやらない事もないが、それじゃ王君^{ワン}に済まない事になるんだ。王君からの電話に依ると君は目下^{ペーピン}北平でヨボヨボしている白系露人の頭領、ホルワツト將軍の秘書役だったが、日本の田中内閣が潰れてから、同將軍を支持する国が無くなつたので見切りを付けて、共産軍の方へ寝返りを打ったサイ・メイ・ロン君に相違ないというんだ。それから君はツイこの頃になつて

ゲー・ペー・ウー
G・P・Uの遊離細胞となつて、シャンハイ上海に流れ込んで来ると間もなく、最近上海で国際スパイ兼、排日団体の首領として売り出している、チンオン青紅嬢のこぶん一乾児となつたもので、Rの四号というのはヤツパリ君の事らしいという王君の報告だがね。

……ところでそのRの四号君が、ドレ位の腕前を持っているか
ということは、今云う通りすじみち経歴がヤヤコシイからサツパリ判然わか
つていないんだが、とにかく一当り当つてフオカス焦点を合わせてくれ、
トランクの中味もまだ突止めていないが、近いうちに日支関係が
緊張するのを見越して、上海の巨商おうかくごう黄鶴号から、長崎の支店へ
送るべく青紅嬢に委託された貴重品らしいという話だったがね。
ハハハ。王君はナカナカ眼が高いよ。

……ナニ……王君の正体は何だつて聞くのか。……フフフ……

それを聞いてドウするんだい。王君の親友が吾輩なんだから、大抵想像が付くだろう。序ついでに吾輩はこの船の機関長でも何でもない。だから最前から饒舌しゃべり続けた経験談なんかは、ミンナ受け売りのゴツタ雑ぞうすい炊だ。トランクの中味がわかるまで君を釣つとくためのヨタだつた……と云つたら、尚の事、焦点フオカスがハッキリしやしないか。ハツハツハツ……ナニ……日本のスパイ船……僕が参謀将校……ウフウフ。当らずと雖いえども遠からずと云つておくかね。

……フーン。何だつて、僕に秘密の相談がある？ 何だ。云つて見たまえ。ナニイ。聞いている者が居ちや話せない。ウン。よしよし……。オイ。ボン州。こいつのオモチヤを取り上げてくれ。

モウ外ほかに何も持っていないな。万年筆と名刺だけか。よしよし。それだけ残しとけ。後で書かせる事があるかも知れないから……それから手前等てめえはこの室へやを出て、扉ドアをピッタリと閉めておけ。用があつたらベルを押すから……ナアニ。俺の事は心配するな。この坊ちゃんの話がよくわかつていらつしやるんだからな……。

サア。誰も居ない。鍵穴まで閉ふさがつているんだ。その秘密の相談といふのを聞こうじやないか。何だ何だ。何だつて服を脱ぐんだ。ハハア。裏に縫い込んだな。G・P・Uゲーペーウーの指令か。フウン。暗号だな。ウム。とうとう白状したね。日本の参謀本部が喜ぶだろう。青紅嬢が日本の諜報勤務を馬鹿にし過ぎたから君がコンナ眼に合うんだよ。

……何だ。まだ着物を脱ぐのかい。まだ何か縫い込んであるのかい……アツ……。君は婦人ですな……。

イヤツ……これあどうも……最前さつきから平気で色眼鏡を外したり、僕と一緒に男便所へ入ったりされれるから真逆まさかと思っておりますが……ハハア……貴女あなたがサイ・メイ・ロン君の青紅嬢で、同時にRの四号君。ウムムム。チツトも知らなかった。イヤもう解りました解りました。ズボンは脱がなくなりました。わかっております……アツ……。

……ま……待った待った。待つて下さい。ここじゃ困ります。危険です危険です。実際危険なんです。ま……ま……まあ着物を着て下さい。発見みつかると都合がわるい……早く服装を直して下さい。

そうそう。それからの御相談です。そうそう……イヤ。Rの四号君が貴女あなただと解れば、一番喜ぶのは日本の参謀本部でしょう。Gゲー・Pペー・Uウーの指令系統がわからなくて困っているらしいんですからね。貴女に敬意を表さして下さい。そうして一つ僕と握手して下さい。これでも理解わかりは早いつもりです。へへへ。そうですそうですね。これでも金儲けのために働いているコスモポリタンですからね。世界中が独裁政治ファシストと共産政治ボルセビイキの二つに別れる……ドチラも金が儲からないとあれあコスモポリタンになった方が便利ですからね。世界中のインテリはみんな一種のコスモポリタン式エゴイストですからね。そうですそうです……貴女と握手すれば随分大きな金儲しごとが出来ます。

済みませんがモウ一度腰をかけて下さい。ナアニ。外に聞える
 もんですか。外の雑音の方が高いのですから……電流でんきが来ている
 なんて云ったのは嘘の皮です。寝台の下には誰も居りません。御
 心配なら僕の椅子を取り換えて上げましょう。御覧なさい。コー
 ドも何も付いていないでしょう。ハハハ……。……いいですか……
 ……耳を貸して下さい。とりあえずここで必要な事だけ話しておき
 ますから。いいですか……この船の正体は最早もはやお察しでしょう。
 日本の参謀本部の無電一本でどこへでも行く船なんです。第一長
 崎へなんか行きやしません。嘘だと思われるならば甲板デッキへ上つて、
 羅針盤コンパスを覗いて御覧なさい。チャンと大連たいれん行きのコースを取つ
 ておりますから。実は大連からツイ今さつき無線電信が這入りま

したのでね……この珈琲茶碗の内側に電文が暗号で書いてあります。この通り飲み残りを傾けると同時に出来て来るでしょう。……あつちで又、似寄りの仕事があるのです。やっぱり王君のような人間が網を張っておりますからね。……そればかりじゃない。貴女が専門家ならすぐに気が付くでしょう。この船がタツタ今出しかけている速力に……二十一節ノットパイに出しかけているところですからね。

……ね。貴女と僕の立場が容易でない事がわかったでしょう。国事探偵としての貴女と僕の地位は、大将と兵卒ぐらい違うのですが、ここ暫くの間は僕に任せて下さらないと困りますよ。いいですか。貴女は依然として遊離細胞のR四号君ですよ。そのつも

りで何でも僕の云うなりになって下さらないと……そうそう……
それじゃいいですね。

とりあえず甲板デッキの部屋へ帰りましょうね。あそこでユツクリ御
相談しましょう。ナア二。この船の中では船長以下が僕の命令通
りに動きますから、心配は要りません。問題は 大連たいれんに着いてか
らです。大連から 清津せいしんへ抜けて、あすこから 浦塩うらじおへ抜ける途
がありますから……露西亞ロシヤ語ならお手のものでしよう……ハラシ
ヨ……濟みませんがそのベルをモウ一度押して下さい。いくつで
もよろしい。デツキの部屋へ二人分の寢床を支度させましょう。
へへへ……オイ。ボン州、銀州、エテ公。チョット来い。用があ
る……ウン。扉ドアを閉めてこつちへ這入れ……。こいつを押さえろ

ツ……その万年筆を取上げろツ……毒瓦斯らしいから……。

アハハ。どうです。身動きが出来ないでしょう。僕の部下は素早いでしょう。ハハハ。お断りしておきますが、今まで云った事はみんな嘘です。この船は国際的ルンペン船でもなければ、日本のスパイ諜報船でも何でもない。貴女はまだ御存じないでしょうが、日本と支那の間を、^{カーゴボート}荷物船に化て往復しているG・P・Uの海上本部K・G・M号です。そうして僕はこの船の船長ですよ。わかりましたか。ハハハ。……貴女がG・P・Uを裏切つて、日本に隠れようとしていることを看破した王君が、取りあえず僕に引渡したんですが、お気の毒ながら……ナニ……僕の国籍？ 名前……へへへ。今は日本語を使っているから日本人ですが、浦塩へ這入

れば露^{ロシア}西亞人で通りましょう。こいつ等は皆日本語のわかる朝鮮人ですが、国籍を持っている奴なんか一匹もこの船に居ないんですよ。……まあ……そんな事はどうでもよろしい。……ナニ……僕^{うま}の日本語が巧妙過ぎる？……大きなお世話だ。お前さんの露西亞語ぐらいのもんさ。東京の寄席には漫談をやっている露西亞人が居るんだぜ。……ニチエウオ……オツトその万年筆はソーツとその棚の上に置いとけ。落ちたら大変だぞ……そいつが恐ろしかったから呼んだんだ。序^{ついで}に着物を引つ剥^はいでくれい。ナイフで切り裂いても構わない。そうだそうだ……。

ハハハ……どうだ、驚いたか。女だろう。いい肉付きだ。

ナアニ……可哀相も糞もあるもんか。スツカリ引つ剥^はがしてし

まえ。着物はこの寝台の上に並べろ。靴も……ズロースも……俺
が後で検査してやるから。まだ別に日本内地のG・P・Uの名簿
と暗号の鍵を隠して在る筈だからな。コイツ奴め、日本の参謀本部
に売り付ける了りようけん。簡かんで持つて来やがったんだ。危ねえの何のつ
て……。

オット。痛い目を見せなくともいいんだ。女スパイにはおぼえ経験が
あるんだ。これ位の女になるとモウこの上に泥を吐く氣づかいは
ないんだ。それよりも身体中からだをスツカリ調べろ。喰い付かれるな
よ。誰か片手で頭の毛を掴んでろ。それからスパナか何か持つて
来て口をコジ開けるんだ。開けなけあそのナイフを嚙ませて見ろ。
強情な女あまだな……そうそう。金歯かアマルガムがあつたらペンチ

で引っこ抜くんだ……血だらけで見えないか。懐中電燈を出せ。
俺が見てやる……ウム。みんな綺麗な歯だ……よしよし……今度
は鼻の穴だ……イイカ。唇をシツカリつま抓んでろ。唾液つばでも吐きや
がると穢きたないからな……ちよつとこの電燈を持っててくれ。動かす
んじやねえぞ。反射鏡を使うんだから……ウム。何も無いと……
耳の穴はドウダ。ウム。よしよし。チャント掃除してやがる。学
生らしくもなかつたな。ハツハツ。髪の毛の中はドウダ。何も無
いか。よしよし。それでよしと……。

そんならモウこの剥身むきみに用は無いな。ハラシヨ。貴様達に呉れ
てやるから、そっちへ持つて行つて片付けろ……ナニ……。

何だ何だ……モウ一つ云う事がある。云つてみる。ハハア……

貴方がたを疑つて済まなかつた。G・P・Uを裏切つたのじやない。裏切つた形にして東京の×××大使館へ重大な密書を運ぶんだ……成る程……密書の内容は？……ウム。上海の排日で……上海の排日で……それがどうした……オイ……シツカリしろ……サ……ブランデーを飲ましてやる……シツカリしろ。上海の排日がどうした……ウム。上海の排日で、世界大戦の導火線を作る見込みが充分に付いた……×××は他の国と同盟せずにキヤスチングボートを握つてくれ。……御要求の利権を承認する旨、本国へ取次いでくれ……何だ。それあ南京政府の密書か……そうじやない。蔣介石しょうかいせきの仕事か、フフウ、そいつあ問題が大きいぞ。……本文は万年筆の鞘さやに塗り込んである。これか……ナアル程。

エボナイトじゃないわい。パラフィン塗りの紙細工か。ウマク細工したもんだ。……ウン。これが密書か。有難い有難い。コイツはドエライ金になるぞ。尤も若槻内閣へ売つちやドツチミチ損だが……。ウム。ヤット本音を吐きやがった。……オイ姐さんねえ。この船を密輸入目当ての海賊船たあ思わなかつたかい。それよりもこの王さんの顔をモウ見忘れたのかい。チツトばかり細工はしているが、あんまり見識みしり甲斐がいがなさ過ぎるじゃないか。眼付きを見ただけでも日本人とわかりそうなもんだが……。アハハハ。姐ねえさんにも似合わない。K・G・Mが海牛丸しやれの洒落と気付かなかつたばつかりにスツカリ底をハタイちやつたね。フフフ……。

ああくたぶれた。焦点フオカスが合わないので恐ろしく手間を喰わせ

やがった。女はドウモ苦手だ……ハハン……。モウいいから片付けちまえ。ホラツ……喰い付かれるなどタツタ今云ったじゃないか。見ろ……。

……オイオイ。扉ドアを開け放して行く奴があるか。馬鹿野郎。ハツハツ。アトは汽か罐まへブチ込むんだぞ……ハツハツハツハツハツハツ……。

青空文庫情報

底本：「夢野久作全集6」ちくま文庫、筑摩書房

1992（平成4）年3月24日第1刷発行

底本の親本：「冗談に殺す」春陽堂

1933（昭和8）年5月15日発行

※底本の「上海《シャンハイ》をを」「上海《シャンハイ》にに」をそれぞれ、「上海《シャンハイ》を」「上海《シャンハイ》に」に改めました。

入力：柴田卓治

校正：土屋隆

2004年1月5日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

焦点を合せる

夢野久作

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>